

WLB を考える会～女性会員の集いとのコラボ～in 秋季大会2019開催報告

人材育成・男女共同参画委員会

福岡国際会議場で開催された2019年度秋季大会2日目(10月29日)の昼休みに、Work Life Balance (WLB) を考える会～女性会員の集いとのコラボ～を開催しました。これまで本委員会では、定期的に女性会員の集いとWLBを考える会をそれぞれ行ってきましたが、この2つの会で話題とするテーマが共通することが多いため、今回、合同で開催することになりました(第1図)。今回のテーマは無意識のバイアス(誰もが潜在的に持っている偏見)でした(世話人:西川はつみ(東大・開催時北大)・木下武也(JAMSTEC)・江口菜穂(九大))。当日は、大学院生、任期付き研究職員、パーマナント研究・教育職員、民間企業職員など年代や所属機関がさまざまな方々(約20名)にご参加頂きました(第2図)。

本会では、事前に行った「無意識のバイアス」に関するアンケート結果を報告するとともに、参加者に本

会のテーマについて感じている点を挙げて頂き、活発な議論を行いました。以下ではアンケートの概要および、議題に上がった内容を簡単に報告します。

まず、参加者から自己紹介を行って頂き、日々の生活において感じていることをお話し頂きました。その中で多くの方から出た意見は、どのような立場でも休むべき時に休める環境を作ること、長時間労働しなければならない部分に対し、皆で対応できるような意識を持つことが大事であるといったものでした。また、本テーマは国外においても存在していることが、海外での研究機関に所属経験のある方の話からわかりました。

「無意識のバイアス」に関するアンケートは、まずバイアスチェックを行うことのできるwebサイト(<https://implicit.harvard.edu/implicit/japan/> (2020.12.10閲覧))にてバイアスチェックを受けて頂き、これに関するアンケート(実施後の感想など)をweb上で回答頂き、16件の回答を得ました。アンケート結果からは、20～50代まで幅広く回答頂いており、「男性＝科学」という認識の方が多く結果となりました(第3図)。バイアスチェック後の感想は、自身の思い描いていた通りの結果となった方が多かった一方、逆の結果になった方も一定数おり、バイアスチェックを行う必要性を再認識できたのではと思います。また、質問内容や調査方法により結果が変わるのではといった指摘もありました。「無意識のバイアスが、実際の研究生生活や就職活動に影響を及ぼした(及ぼし得る)場面はどんな場面か」という質問に対しては、雇用関係という回答が多く見られました。雇用に関し産前・産後休業や育児休業に対する影響やバイアスが生じているのではないかと考えた方がいるようです。

気象学会人材育成・男女共同参画委員会 主催

WLBを考える会 ～女性会員の集いとのコラボ～ テーマ:無意識のバイアス

飛び入り大歓迎!


in 福岡国際会議場 **10/29(火)**
※大会2日目

■ 学会C会場
■ 午前セッション終了後 ～ 12:50
※未登録(当日参加)の方は昼食をお持ちください

研究分野や世代を超えて、気軽に語り合ってみませんか?
今回のテーマは“無意識のバイアス(誰もが潜在的に持っている偏見)”です。


ご自身の“無意識のバイアス”をチェックしてみませんか?

バイアスチェックURL:
<https://implicit.harvard.edu/implicit/japan/>



バイアスチェックを受けられた方は、アンケートにもご協力をお願いします。

アンケートURL:
<http://urx.space/hKWa>



第1図 学会会場に掲示したポスター。

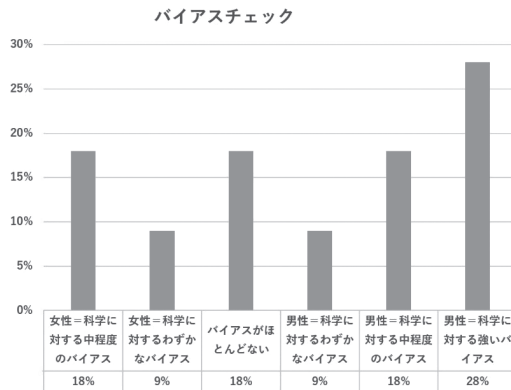


第2図 会場の雰囲気。積極的な意見交換がなされた。

結果を報告した際に出たコメントとしては、「無意識に（会議中に）お茶を配っていることがある」、「女性限定の雇用がちらほら見られるようになった」、「女性を採用した方が、予算がつく」といった意見が出た一方、「人事の立場から言わせてもらおうと、バイアスはない」との意見も頂きました。この無意識のバイアスを軽減する方法としては、バイアスチェックを定期的に行い、認識することが大事なのではないかという話にまとまりました。

この他に、育児休業に関して休業後のサポート、競争しなければならない時期に休まなければならないところをどう評価するかといったことについて意見が交わされました。その結果、いくつかの大学では、条件は異なりますが、Teaching Assistant等、研究補助者をとることのできる制度があることがわかりました。評価については育児や介護自体の評価は難しいが休んでいる期間については考慮できるといった意見が出ました。

2020年はCOVID-19により、雇用環境が大きく変わりWLBも大きく変化した年になったかと思います。このような状況におきましても人材育成・男女共同参



第3図 ジェンダーと科学に対するバイアス
チェック結果の割合。

画委員会では、引き続き「女性の集い」、「WLBを考える会」または今回のようなコラボの形で会の開催を行っていきます。委員会では「人材育成」や「男女共同参画」をキーワードに、よりよい研究環境を作り上げるための方法を検討していきます。これからも会員の皆様方のご理解と、企画への積極的なご参加をお願いいたします。